

平成28年4月30日

実施範囲：平成27年5月～平成28年4月

エコアクション21

環境活動レポート

目次

- 1 環境方針
- 2 事業概要・組織図・役割と責任
- 3 環境目標と実績・環境負荷の削減方法
- 4 主要な環境活動計画の内容
- 5 環境活動の取組結果の評価と見直し
- 6 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
- 7 その他の活動
- 8 全体の見直し



環境方針

石川産業販売 株式会社は、岩手県を中心に包装資材の製造販売を行っている企業です。環境保護をテーマに、プラスチック類と紙類のリサイクル、またエコ商品の情報収集と発信、及びに環境を配慮した商品の普及と販売、自然環境と企業の調和を図り、地球温暖化ストップ・資源の有効活用・省エネルギーを推進し、次世代へ住みよい環境を残します。

環境行動指針

- 1 省エネルギーの推進として、車両の二酸化炭素排出量の削減、節電、節水に取り組めます。
- 2 廃棄物の削減・廃棄物の適正処理として、プラスチック類と紙類のリサイクル化を目指します。
- 3 資源の有効活用として、資源の再利用・再使用に努め、使用機器の定期的なメンテナンスを行い長期間の使用に努めます。
- 4 事業活動に関連する法規制は確実に遵守することを誓約いたします。
- 5 地域との良好なコミュニケーションを取り、地域の環境保全活動を実施します。
- 6 取組はエコアクション21ガイドラインに従い、全従業員が運営することを社会に約束し、活動結果を毎年公開いたします。
- 7 取扱商品と、社内使用備品は、安全及び環境に配慮した商品の普及と販売・提供に努めます。

平成 25 年 4 月 20 日

石川産業販売 株式会社

代表取締役

2. 事業概要

1 事業者 石川産業販売 株式会社 代表者名 石川 博文

事業所 本社 : 岩手県北上市九年橋3-18-22
金ヶ崎流通センター : 岩手県金ヶ崎町六原下二の町247-1
北上工場(倉庫として使用) : 岩手県北上市町分1地割363番55~58

認証登録範囲

2 環境管理責任者及び連絡先 高橋 行広
連絡先 電話 0197-43-2288

E-mail : yukihiro__t0111@yahoo.co.jp

3 事業活動の内容

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1) 梱包資材販売(エコ商品提案型販売) | 2) プラスチックトレイ・レジ袋の製造販売 |
| 3) 梱包資材の設計 | 4) ダンボールの販売 |
| 5) 関連機械の販売 | 6) 関連資材の販売(木炭・木酢液) |

4 事業の規模

設立 1979年10月(昭和54年) 資本金 1,000万円

売上高 9億0000万円(2015年度決算)

従業員数 27人(2015年5月末日現在 うちパート 5人) 認証登録範囲 27人

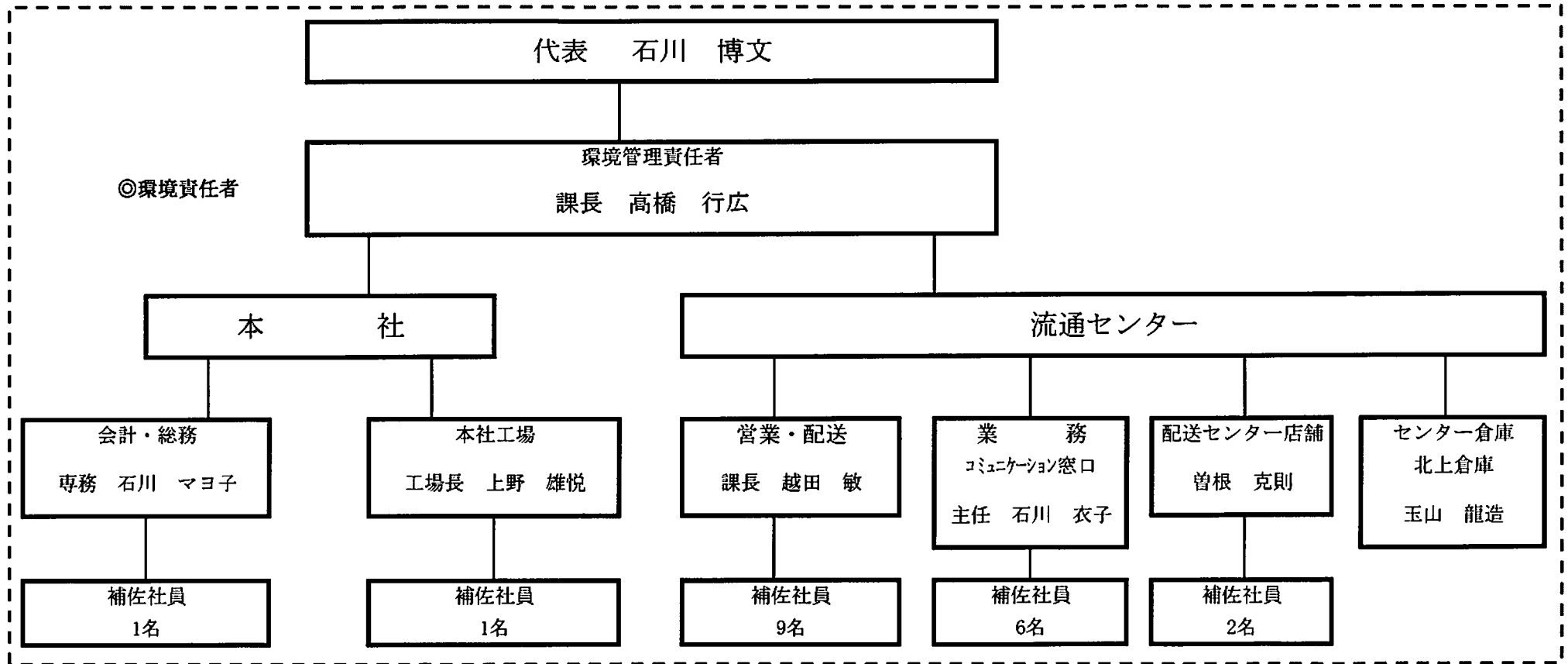
敷地面積 本社 1,035㎡ 金ヶ崎流通センター 1,221㎡ 北上倉庫 1,143㎡

5 認証登録範囲 上記赤枠内

エコアクション21の実施体制

平成28年3月20日

1) 組織図



部門長 8名 社員 19名 合計 27名

2) 役割と責任・権限

平成28年3月20日

役割	担当者	責任・権限
代表者	石川 博文	①環境管理責任者を任命と環境方針の作成。②環境管理責任者からの報告を受け、環境方針に沿って全体の見直しを行う。③取組に対する資源を用意する。④社員に対するエコアクション21の意識高揚への取組みを行う。
環境管理責任者	高橋 行広	①代表者に代わってシステムを構築し運用する。②代表者に結果を報告する。③部門責任者と共にマニュアルを作成する。④エコアクション21の周知徹底を行う。
本社 責任者	上野 雄悦	①省資源、省エネルギー、節水、エコドライブを奨励・実施する。②資源ごみの分別と廃棄物の適正処理を行う。③生産管理 ④環境保全活動 ⑤社内教育と意見収集 ⑥取組みのチェック確認・改善 ⑦環境情報の収集
流通センター店舗 責任者	曾根 克則	①省資源、省エネルギー、節水を奨励・実施する。電気・ガス・水・暖房費・出荷梱包材 ②仕入商品の管理 ③自家使用資源 ④社内教育と意見 収集 ⑤取組みのチェック確認・改善 ⑥環境情報の収集
流通センター倉庫 責任者	玉山 龍造	①省資源、省エネルギー、節水を奨励・実施する。電気・ガス・水・暖房費・出荷梱包材 ②仕入商品の管理 ③自家使用資源 ④社内教育と意見 収集 ⑤取組みのチェック確認・改善 ⑥環境情報の収集
コミュニケーション窓口	石川 衣子	①地域住民、関連機関からの苦情等の窓口業務を行う。②苦情への対策・予防処置策定を行い、代表者の承認を受け関係者に実施を指示し、経過・ 結果の報告を受け改善・定着を図る。

3) 社員の役割

社 員	全 員	①省資源、省エネ、節水、エコドライブに努める。②EA21取組に関する教育訓練を受ける。③自主的に会社の推奨する地域の自然保護活動に参加す る。④改善提案を行なう。⑤一人一役運動の実施を行う。
-----	-----	--

一人一役運動

部 門	担 当	内 容
本社 事務所・工場	上野 雄悦 ・石川専務・阿部（友）・及川（富）	①本社事務所・工場の、省資源、省エネ、節水に努める。②データの報告。
電力・水量・ガス	岩城 正英 ・佐藤健・高橋真奈美・高橋美子	①電力・水量・ガス使用量の削減。②データ報告。
車両燃料	小野寺 利和 ・昆野智・佐藤友和・千葉郁雄・藤原加津代	①車両燃料の削減。②データの報告。
廃棄物・社内整理	曾根 克則 ・玉山龍造・梅木保則・菊地仲義・大畑沙希・小原亜利紗	①再利用・再生利用・資源ごみの分別を適正に行い、最終廃棄処分量を削減。②デー タの報告。③社内整理をすることにより、無駄をなくし、効率の良い社内環境を作 る。
全体管理	齋藤 栄次郎 ・阿部真樹・及川慧子・高橋行広・越田敏	①エコ関連の社内報発行。②連絡事項の管理。③エコ商品販売企画。④社員教育の企 画。⑤環境活動の企画。⑥環境情報の収集

※各部門は、1ヶ月に一回の打合せを行い。データの確認と改善を行う。打合せの日程は高橋（行）へ報告。

※担当は、年に1回約半数を入替え。ただし、本社・工場・固定人員は継続。

※報告データは、及川へ提出。データ記入表はデジタルデータで配布（ペーパーレス）。

3. 環境目標と実績

作成日 平成28年5月16日

		単位	実績	中期目標	目標値		中期 目標達成 状況	短期 目標	目標値		実績		比較 目標-実績	比較 %	削減率 %	短期 目標達成 状況
			H25年5月 ~H26年4月	H28年5月~ H29年4月	H26年5月 ~H28年4月	H27年5月 ~H28年4月			H27年5月 ~H28年4月	H27年5月 ~H28年4月						
① 総エネルギー投入量	購入電力	MJ	617,589	-4%	592,885	404,150	◎	-4%	592,885	404,150	-188,735	68.17	31.83	◎		
	化石燃料	MJ	2,813,081	-5%	2,672,427	2,490,525	◎	-5%	2,672,427	2,490,525	-181,902	93.19	6.81	◎		
② 総物質投入量	資源投入量	t														
③ 水資源投入量	上水	m ³	279.00	-3%	270.63	245.00	◎	-3%	270.63	245.00	-25.63	90.53	9	◎		
④ 温室効果ガス排出量	【二酸化炭素】	Kg-CO ₂	234,840	-3%	227,795	195,185	◎	-3%	227,795	195,185	-32,609.80	85.68	14	◎		
⑤ 廃棄物等総排出量	再生利用	t	16.63	-3%	16.13	12.81	◎	-3%	16.13	12.81	-3.32	79.41	21	◎		
	単純焼却	t	1.00	-5%	0.95	0.59	◎	-5%	0.95	0.59	-0.36	62.11	38	◎		
	最終処分量	t	0.000			0.00	×			0.00				×		
⑥ 総排水量	公共用水域	m ³	37.00	-4%	35.52	21.00	◎	-4%	35.52	21.00	-14.52	59.12	41	◎		
	下水道	m ³	242.00	-4%	232.32	245.00	×	-4%	232.32	245.00	12.68	105.46	-5	×		
⑦ エコ商品の販売品目		品	10	150%	25	25	◎	150%	25.00	25.00	0.00	100.00	0	◎		
⑧ グリーン購入を増やす		品	0		5	7	△	2	3	7	4.00	233.33	-133	◎		

※平成24年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数東北電力実排出係数を使用:0.600kg-CO₂/kwh

※廃棄物等総排出量の再生利用については、集計方法を見直し(H25年度より)

※一般ゴミ(燃える)1回ごとに重さを記録する事

環境負荷の削減方法と目標

2007年 2011年 2013年
平成19年度 平成23年度 平成25年度

2014 2015 2016
平成26年度 平成27年度 平成28年度

		単位	現状 負荷	現状 負荷	現状 負荷	取組状況評価からの削減法	短期 目標	短期 目標	中期目標 短期+短期
① 総エネルギー投入量	購入電力	MJ	750,000	690,469	617,589	事務所内の温度管理、夏は28℃、冬は20度に設定。退社30分前には、暖冷房機器の電源を切る。扉の開閉の管理。休み時間の消灯。電気ポットの使用時間制限。複合機器の節電。1枚送信は手動で。 省エネ運転、急発進、急加速の禁止の表示、アイドリングストップの表示、燃費の管理、タイヤの空気圧チェック。 NO残業デーの実施 月4回毎週水曜日。 ロスの削減。効率のよいロットの生産管理と販売。	-2%	-2%	-4%
	化石燃料	MJ	3,715,857	3,057,398	2,813,081		-2%	-3%	-5%
	新エネルギー	MJ							
	その他	MJ							
② 総物質投入量	資源投入量	t	69.50	57.02					
	循環資源投入量	t							
③ 水資源投入量	上水	m ³	232.50	322.00	279.00	水洗トイレの水量制限、ペットボトル1リットル分。蛇口の節水コマ設置。	-2%	-1%	-3%
	工業用水	m ³							
	地下水	m ³							
【④ 温室効果ガス排出量】	【二酸化炭素】化石燃料	Kg-CO ₂	254,433	242,208	192,695	省エネ運転、急発進、急加速の禁止の表示、アイドリングストップの表示、燃費の管理、タイヤの空気圧チェック、ハイブリット車の購入。	-2%	-1%	-3%
	購入電力	Kg-CO ₂	28,840	26,551	27,844		-2%	-1%	-3%
		kg-CO ₂							
⑤ 化学物質排出量・移動量	大気への排出量	t	0.030	0.030					
		t							
⑥ 総製品生産量又は総製品販売量	製品生産量	t	11,963.76	13,389.23		在庫管理の充実と販売管理。			
	環境負荷低減に資する製品	t	1,735.90	16,835.00					
	容器包装使用量	t	3.30	2.95					
【⑦ 廃棄物等総排出量】	再使用	t	0.14	0.16		コピー用紙の裏面使用。梱包紐の再利用。封筒の再利用。宅配便等の梱包資材の再利用。			
	再生利用	t	0.01	16.63	10.71	紙類、ダンボール、PS、PP、PE、PET、その他のプラスチックのリサイクル。資源ごみの分別。	10%	20%	30%
	単純焼却	t	2.46	1.00	0.96	ごみ分別の徹底	-3%	-2%	-5%
⑧ 廃棄物最終処分量	最終処分量	t	0.03	0.000	4.05	ごみ分別の徹底	-5%	-5%	-10%
【⑨ 総排水量】	公共用水域	m ³	63.00	77.00	37.00		-2%	-2%	-4%
	下水道	m ³	143.04	255.00	242.00		-2%	-2%	-4%
	BOD	g							

○【 】で囲んだ項目が必須項目です。なお、総排水量の把握が困難な場合には「水資源投入量」

が把握必須項目となります。

○各指標の値については次頁以降の集計結果を記入して下さい。

4. 環境目標と環境活動計画内容

1 【購入電力量の削減】 節電 短期目標値：2%+2% 中期目標値：4%の削減

事務所内の温度管理⇒夏は28℃、冬は20℃に設定。退社30分前には、冷暖房機器の電源を切りコンセントを抜く。扉の開閉の管理。休み時間の消灯。電気ポットの使用時間制限と80℃温度管理。生産機器の節電、機械別スイッチの管理、まめな機械温度調節、空運転の短縮。複合機器の1枚送信は手動で行う。

クールビズ・ウォームビズの推進。

2 【化石燃料使用量の削減】 車両の二酸化炭素排出量の削減 短期目標値：2%+3% 中期目標値：5%削減

車内への省エネ運転表示⇒アイドリングストップ・タイヤの空気圧チェック・急発進禁止の表示。毎月の燃費管理。

全体でのエコドライブの意識強化。ハイブリット車への切り替え促進（2台導入）。

3 【上水の使用量の削減】 節水 短期目標値：2%+1% 中期目標：3%の削減

水洗トイレの水量制限、ペットボトル1リットル分を水洗タンクへ入れ節水。蛇口の節水ハンドル設置。

蛇口付近の節水表示。

4 【廃棄物の削減】 短期目標値：2%+1% 中期目標値：3% 【廃棄物の適正処理】プラスチック類と紙類のリサイクル化

コピー用紙の裏面使用。梱包紐の再利用。封筒の再利用。宅急便等の梱包資材の再利用。紙類、ダンボール、PS、PP、PE、

PET、その他のプラスチックのリサイクル。目標値：リサイクル率20%
リサイクル率=再生利用総重量 t / 総廃棄物重量×100

5. 環境活動の取組結果の評価と見直し、次年度の取り組み

1. 総エネルギー投入量⇒下記内容にて取組は的確に実施され、購入電力使用量の削減率（%）では今期達成である。実成果は着実に出ていますので、更なる工夫での削減が必要である。

化石燃料はエコドライブ、ハイブリット車への切り替え等の効果で目標を達成した。

【1】購入電力 事務所と倉庫の節電については徹底している。冷暖房機と給湯機器の温度管理で、成果が出てきている。生産機械の不使用时はまめに電源を落として節電に努めている。又、事務所の蛍光灯をLEDへ移行した成果が出てきている。工場の廃止もあり、今後はより以上の効果が出てくると思われる。

【2】化石燃料 アイドリングストップとタイヤの空気圧チェック、エコドライブ等で、概ね1台当たりの車両燃料は削減されているが、ハイブリット車購入により、更なる徹底が必要と思われる。

【3】次年度の取り組みとして、購入電力ではLEDの更なる切り替え、化石燃料ではハイブリット車の台数を増やしていきたいと思えます。

2. 水資源投入量(総排出量)⇒節水の見直しが効果を奏し目標を達成出来た。

次年度の取り組みとして、更なる実施継続に努める。

3. 温室効果ガス排出量⇒下記内容にて取組は的確に実施され、化石燃料使用量の削減は目標達成であり、購入電力の目標は達成出来た。

【1】二酸化炭素 購入電力、化石燃料に順ずる。

4. 廃棄物等総排出量⇒下記内容にて取組は的確に実施されたと評価する。

【1】再使用 コピー用紙裏面の再使用は、裏紙保管箱を用意して実施された。

【2】再生利用 再生利用できる廃棄物の分別箱を用意しリサイクル率が向上した。

【3】単純焼却 再生利用出来ない物の分析をして検討する。

【4】最終処分量 今期新たに発生。次年度より削減に努める。

【5】次年度の取り組みとして、単純焼却と最終処分量に関して特に力を入れて取り組みます。

5. 総排出量（水資源投入量に順ずる）

6. その他 環境への意識チェックの実施について⇒環境への意識は確実に向上している。

- ・環境意識チェック・セミナーを実施。環境意識について概ね共有できた。その意識を継続するために定期的なセミナーや、新入社員の教育を実施した。
- ・次期取り組みとしては、化石燃料等の更なる削減とエコ商品販売をもっと増やしていく予定。
- ・エコ商品-食品トレー、環境配慮型商品を特に力を入れて販売します。

6. 法規制の違反・訴訟の有無

- ・法規制は、環境関連法規遵守チェック表の見直しをする。違反の有無は定期的に確認をする。
- ・社内の法規制に関しては、遵守状況を確認した結果、過去5年間違反はありませんでした。
- ・又、地域住民からの訴訟もありませんでした。

7. その他の活動

1. 社内教育

- ・平成28年6月中 全社員を対象に研修会を実施予定（新人教育、是正教育、取組状況の確認）

2. 清掃活動

【敷地内周辺草刈】

(巻末参照)

- ・実施日 平成28年5月末日を目途に実施予定 AM9時～12時 ・実施場所 金ヶ崎町 メフレ内
内容：動力草刈機4台で作業し、その後側溝清掃も行う予定です

3. 火災訓練

- ・実施日 平成28年6月末日を目途に実施予定 AM9時～10時 講師：三田防災
内容：三田防災より講師を招き、火災に対する心構えと、消化器による消火実地訓練を行う予定
併せて、消化器の使用期限の点検・交換をします。(巻末参照)

4. 交通安全講習

- ・実施日 平成28年6月中旬予定 AM9時～10時、PM4時～5時 講師：三菱ふそう株式会社
内容：三菱ふそうより講師を招き、交通法規・安全運転に対する心構えと、車両点検整備などの講習をします。

8. 全体の見直し

- ・ 全体的な取組に関しては、活動が継続できているので大いに評価出来る。
更なる改善を都度事に精査する必要がある。
- ・ 組織の分け直しをして、更なる効率化を高める。
- ・ 化石燃料と水資源に関しては目に見えて効果が表れ目標が達成できたので、このまま継続をしていきます。
- ・ 法規制に関する法改正のチェックを定期的に確認するよう努める。
- ・ 地域との環境保全活動は、清掃活動を中心に実行しました。
- ・ 次期取組内容は、中期目標まで達成したので再度設定をし直し、更なる削減に努めたい。

代表取締役

石川 博文

